

基礎研究振興部会（5月16日開催）における主な意見

原子核物理学の新たな展開について

- 「量子産業の創出・発展に向けた推進方策」とEIC計画の関係性が明確でないので、対外的に打ち出す際には、誤解ないようにお願いしたい。
- 核スピン量子技術、量子計算技術、量子情報技術に貢献することは、アピールし過ぎない方が良いのではないか。それは、1GeVスケールのスピント、マイクロエレクトロンボルトでスピン2分の1がどうつくられるかは全く別の仕組みであるため、基本的にヒントを得られないはずの領域だと考える。マイクロエレクトロンボルトスケールの物理はもっと安くできる実験系があり、1GeV以上であれば1GeV以上の物理をしっかりとやるべき。
- 理研や東京大学に加えて、全国の大学の研究者が協働するような形で参加できる形態になっているか。日本の大学コンソーシアムを形成するなど、興味がある大学院生とかが参加できる形態になるほうが良い。
- ダイバーシティの観点で、女性研究者の参加も大切。

EIC計画について

- EICはとても重要なプロジェクトで、その中でもQGPに関する研究や、1GeVスケールでどのようにスピンがつくられるかというのはとても重要であり、そこに日本が参画して、日本の工業技術がそこでまた進展することも重要である。
- 将来に期待ができる計画ではあるが、ある程度の金額・期間を費やすことになるため、社会、国民からの理解、支持が重要。かなり早い段階から、社会や国民からの支持を得るための科学コミュニケーションを丁寧に行っていく必要がある。